

血液製剤の有効活用に関する研究

御理解のお願い

当院は、「中小産科施設における赤血球製剤準備血の廃棄削減を目的とした、茨城県合同輸血療法委員会によるblood rotationのパイロット研究」に参加しています

出産時の大量出血に備え、産科病院では輸血用血液をあらかじめ準備しておくことがあります。

輸血用血液は、適正に管理・保存されれば血液型など条件の合う他の患者さんに用いることができ、出産時に限らず使用されなかった輸血用血液は同じ病院内の患者さんに輸血されています。しかし一度病院に納品されると、血液センターに戻したり他の病院に送ったりすることはできません。あくまで同じ病院内の患者さんに限られます。そこで比較的患者さんの少ない中小規模の産科病院では、準備された輸血用血液の多くがやむを得ず廃棄されているのが現状です。

東京都赤十字血液センターから離島にある小笠原村診療所への輸血用血液の供給では、小型の血液搬送機材ATR（エーティーアール、Active Transfusion Refrigeratorの略）が用いられ、診療所で輸血されなかった場合は返納され、東京都内の総合病院で輸血に用いられています。もちろんATRで運ばれた輸血用血液は品質に問題がないことが検証され明らかになっています。この仕組みはブラッドローテーション、Blood Rotationと呼ばれています。

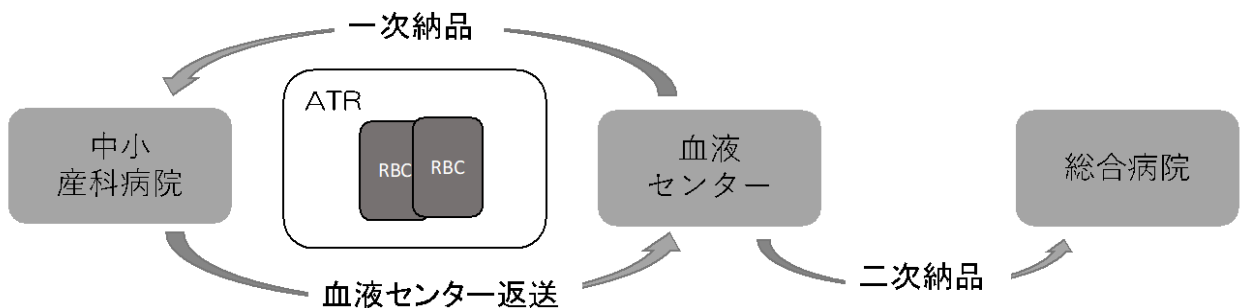
茨城県合同輸血療法委員会では、中小産科施設における廃棄血液削減を目指して、ブラッドローテーションの仕組みを取り入れるための実証研究を行なっています。

本実証研究では、中小産科施設において納品された輸血用血液の数、未使用で血液センターに返却された数、総合病院へ再納品された数、総合病院での活用数を調査いたします。これを12回の中小産科施設において納品に対して行います。

当院はこの研究に参加し、ATRを用いて産科施設で適正に管理・保存され、血液センターに返送された輸血用血液を、通常の血液製剤と区別せずに受け入れております。

この血液製剤は輸血を受ける必要のある患者さんに他の輸血用血液と区別なく使用されます。この輸血用血液は通常の輸血用血液と変わることは何らありません。

皆様のご理解をお願い申し上げます。



問い合わせ先

筑波大学附属病院 輸血部 長谷川雄一

連絡先 029-853-3791 平日9:00-17:00の対応になります